

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

~TANKYU~

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 7. 28
No.30 文責 鹿間

ふたば 生活単元 なかよしふたばファーム

ふたば 授業研究 成果と課題

個人研究のテーマについて

◇異学年交流による望ましい人間関係を作るための授業づくり

○それぞれサポートしあう姿が見られた。（困ったら助け合うなど）

○5年生が緑のミニトマトの味見をする姿に触発されて3年生も試す場面があった。

○他教科との関連で、学年を超えて学ぶ内容があった。

△収穫したものでマルシェを開くなどそれぞれが別の役割をすることで、学習が広がるのではないか。

授業の構成・流れについて

◇学習形態の工夫

○繰り返す学習の効果が表れていた。（自分たちから活動する。自分で学ぶ時間を一生懸命活動する。）

○予想しながら観察するときに日数や取れた数などを数値化することで、自分事として活動をふり返ることができる。

○5感を使った授業展開が自分の言葉でまとめるきっかけになっていた。

○穏やかな雰囲気での授業は、中学校での学びにもつながる。

【伊藤指導主事のご指導から】

・参観者が増えてもいつもと同じ雰囲気での授業できている子どもたちの姿から、一昨年からの子どもたちの成長がみられた。

・知的障害のある子どもたちは教科で断片的に学ぶことが困難であるが、実験の中で学ぶことで、自分事としてとらえることができた。しかし、目標が必要である。子どもたちの実態を見て今日の目標よりも高い目標を掲げ、その目標を達成するために活動をどう仕組んでいくのか考えることが大切である。

※今日の姿で言えば、ミニトマトの枝が折れた場面で自分から考えていた。任せてみることで大きな一歩が踏み出せるような気がする。

・子どもたちに主体性がみられたのは、確かな見通しを持つことができたからである。意外性を一緒に楽しみながら、生活単元を続けてほしい。